

2015年1月21日
代表理事 高本 学

皆様、新年明けましておめでとう御座います。代表理事を務めております高本でございます。日ごろより、協会会員皆様におかれましては、当協会の活動主旨にご理解を賜り、また日々の活動を通じまして、風力発電の導入拡充にご尽力頂き大変有難うございます。心より感謝申し上げます。また、本日はたくさんのご来賓の皆様のご臨席を賜り、また風力発電業界発展に対し、深いご理解とご指導・ご支援を頂いており衷心より御礼申し上げます。

さて、日本風力発電協会の会員数は既に263社という大変大きな団体となっており、皆様の風力発電導入拡大に期待する熱い思いを感じている次第であります。一方で、2012年7月にFITが施行されましたが2015年3月末での推定累積導入量は、292万2千キロワット、2,922MW、設置基数で2,031基、428発電所であり、残念ながらその導入量は期待する値とはなっておらず、また諸外国と比較しましても、導入量停滞の現状は大変懸念される状況下にあることを深く認識しております。その大きな要因となっている環境アセス期間の短縮に関しましては、経済産業省はじめ関係各位との協議の中で議論しており、早期にその効果が目に見える形となるよう期待しているところでございます。現断面で、風力発電事業の工事着手案件は徐々に増加の傾向にはあるものの、日本の電源を支える、確固たる再生可能エネルギーの主力システムとして、風力発電がドラスティックに増強・拡充されるよう、また2015年が日本風力発電事業にとって新たな元年となるよう、皆様と共に以下の施策断行に向けて努力していく所存でございます。引き続きまして、ご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

風力発電の導入拡大に向けた、日本風力発電協会の対応すべき姿勢と致しまして、まず念頭に置きたいのは、“協会内部における技術力向上に向けた自主努力と対外的な情報発信プロセスの進化”であります。2013年から14年にかけて発生しました、風車のトラブルにつきましては、皆様ご承知のことと思っておりますが、より信頼性の高い、また国民の皆様安心してご覧頂けるシステムを提供することは、私ども協会の責務であります。このため、昨年より定期点検における保守ガイドラインの策定やJWPAによる定期点検状況の審査規定などの検討を始めており、これらの施策が定着していくよう、また風車部品や設計力・プロジェクトマネージメント力の強化など、協会会員皆様が各個社で出来ることを真摯に検討し、協会の技術部会を始めとした各部会における協議・実行プロセスをより進化させていきたいと思います。また、協会としましては、広報活動の強化にも力をいれてゆきます。例えば、“低周波振動”などやや漠然としたキーワードにしましても、学術的な側面と国民の皆様により分かりやすい言葉でお伝えしていくよう、小冊子の配布など広報活動を活発化し、適切な情報発信の立場を鮮明にしてゆきます。

また、2014年には電力会社における系統連系の検討保留問題が発生し、再生可能エネルギー業界に大きな波紋を残しました。これらの解決施策に向けても、系統送電線の増強や系統間電力融通量の拡大など大きな視点で改善を施す部分がありますが、ウィンドファームの高効率制御や広域運用と連携した運用・管理システム構築、気象予測運転制御技術など、個社が得意とする技術をより進化させる努力で貢献していきたいと考えています。このよう

な協会の努力が、風力発電システムのコストダウンを生み出し、事業性の評価予測性を高め、日本の電源を大きく支える風力発電になっていくものと信じております。

新年にあたり大変厳しいことを申し上げてきましたが、風力発電業界の発展にむけて、皆様と一丸となって努力して行きたいと思っております。最後になりましたが、ご臨席の皆様、ならびにご家族の皆様のご健康とご多幸を祈念致しまして新年のご挨拶に代えさせていただきます。有難うございました。

以上

